

WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.80

2012.3.25 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.80 目次

平成 23 年度 野生動物救護獣医師協会講習会 開催報告	2-6
講演会「インドネシア・スマトラ島のオランウータンを救おう！」開催報告	7-8
平成 23 年度 油等汚染事故対策水鳥救護研修 報告	9-10
＜コラム＞ 海鳥・絶滅種の再確認	10
野生動物ボランティアセンターにおける被災動物の受入れについて	11
寄付のお礼	11
事務局日誌	11-12

平成 23 年度 野生動物救護獣医師協会講習会・開催報告

WRV事務局 箕輪 多津男

昨年の12月10日（土）に、恒例となっております「野生動物救護獣医師協会講習会」（WRV東京都支部・主催、WRV本部・共催）を、ホテルローズガーデン新宿・ローズルームにて開催いたしました。

参加者につきましては例年同様、約50名に上りましたが、その内実を見てみると、今回は臨床に携わっておられる獣医師の方々だけでなく、主に獣医学や動物看護学、あるいは動物学を学んでおられる大学生および専門学校生など、若い年齢層の方々の姿が大変目立ち、これまでにない傾向が見られました。

当日は、まずWRV東京都支部長も兼務している新妻勲夫会長より、開会の挨拶とともに、講習会を開催するにあたっての主旨、あるいは今後に向けた野生動物救護事業に関する抱負などが伝えられました。



WRV・新妻勲夫会長



講師：田向健一先生

それに続きまして、今回の講習会のメインとなるご講演を、WRVの理事も務めておられる、田園調布動物病院・院長の田向健一先生より賜りました。テーマは「ウサギと両生爬虫類の臨床」ということで、これまでの長年に渡る臨床のご経験と、様々な研究の成果を織り込んでいただきながら、具体的な実践事例を中心として、興味あふれるお話を頂戴いたしました。

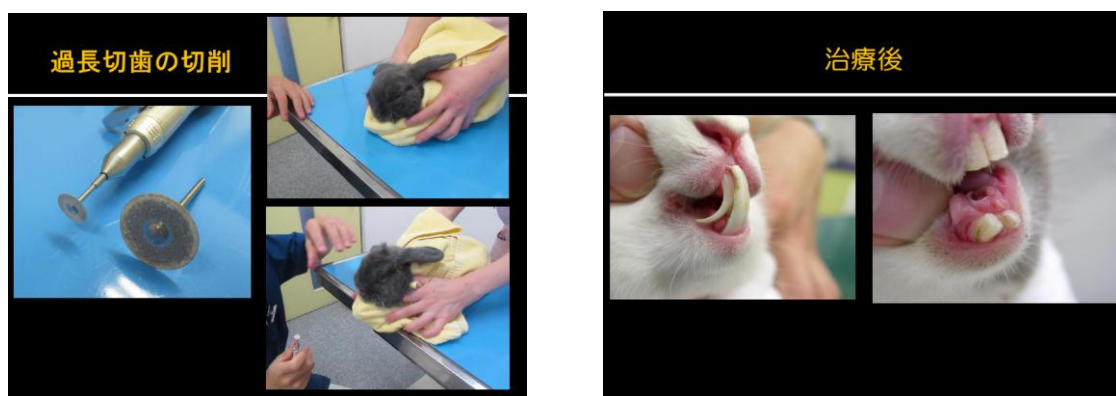
その中で前半は、ウサギの臨床に関して順次解説いただきました。

まず、ウサギは大変神経質な動物であるため、その診療にあたっては、極力ストレスを軽減するよう配慮することが重要であると強調されました。タオルや籠を使ったやさしい保定を行い、落ち着かせることによって、その後の診断をうまく進めていくことができるようです。

採血については、ウサギの特徴である大きな耳介にある静脈や脚の外側伏状静脈、あるいは橈側皮静脈から行う方法が示され、次に、採取した血液による血液学的または生化学的検査法について解説されました。PCV(正常値はおおよそ36～50%)の数値による基本的な診断や、白血球の状態を調べることによる感染症の診断、血中の総タンパクやアルブミン、さらにはGPT、GOT、ALP、各種脂肪分の値を取ることにによる内臓疾患や腫瘍の有無の診断など、内科学的に様々な角度から個体の状態を細かく調べていくことの大切さが伝えられました。

続いて、X線撮影法の解説の後、ウサギの三大疾患である「歯牙疾患」、「胃腸疾患」、そして「子宮疾患」について順次、説明していただきました。

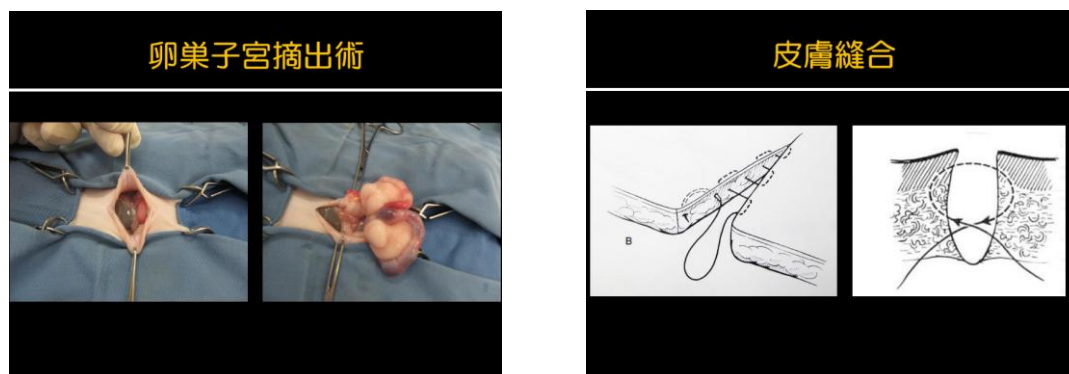
まず歯牙疾患については、常生歯、つまり常に伸び続ける歯を持つウサギにとって、基質的要因や、食物繊維が不足するような餌を原因とする歯の伸び過ぎや咬合異常が、いかに怖いものであるかが示されました。また、歯の異常が鼻涙管を塞いでしまうことによる流涙の症状が、よく別の原因に求められてしまうこと(誤診)があるそうで、注意が必要であることが強調されました。そして、実際に症状が進んでしまった事例について、独自に開発された切削器等を使用した治療法が具体的に示されました。



田向先生より提供いただいた資料より

次に消化器疾患については、胃腸鬱滞や急性胃拡張、盲腸便秘等のほか、ケトン体の上昇や脂肪蓄積による肝リポドーシスなど、時に致死の危険のある諸症状について注意が促されました。これらの疾患については、まず予防措置が大切で、適切なペレット(体重の1.5～3%)や十分な食物繊維の給餌、あるいは適度な運動やストレスの回避等が重要であることが示されました。罹患してしまった場合の治療に関しては、水和や胃腸蠕動運動亢進を主眼とする投薬治療を中心にご紹介いただきました。

子宮疾患については、大半が陰部からの出血(血尿)により診断がつくとのことでしたが、そのほかに、乳腺の腫大や腹部の膨満なども臨床徴候として重要なようです。血液検査やX線検査等によって診断を確定させた後、必要に応じて子宮や卵巣の摘出術を施すことになり、具体的手技につき、画像とともにご紹介いただきました。



田向先生より提供いただいた資料より

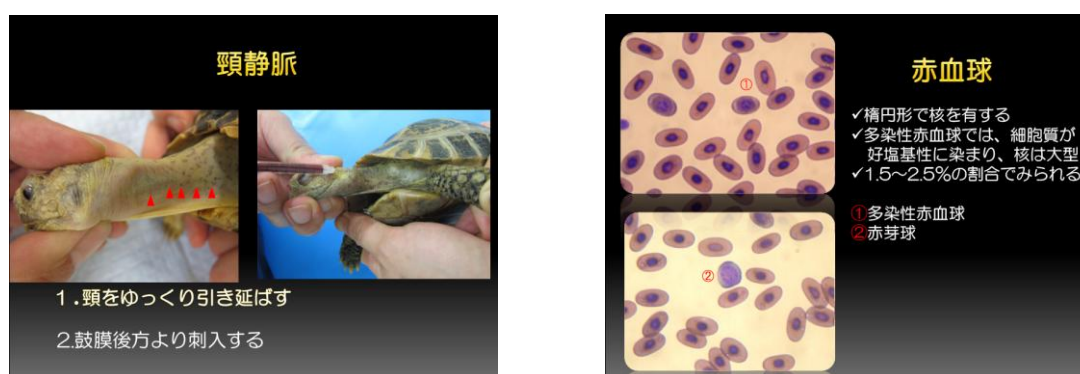
なお、術後の皮膚縫合について、田向先生は糸目が表に現れないように縫う、いわ

ゆる埋没法をできる限りとられるとのことで、そうした所からも、高い技術を常に追求される先生の姿勢が自ずと伝わってまいりました。

ご講演の後半は、爬虫類を対象とする内容でしたが、具体的にはその代表としてカメの臨床について順次解説いただきました。

その中でまず、カメという動物の特異な骨格や体構造、あるいは体腔内臓器といった解剖学、あるいは生理学的な解説を一通り頂戴した後、様々な診断法へと話題を移していただきました。

まず、血液検査に先立って、頸静脈、腋窩静脈、および尾静脈からの採血方法について示していただきました。そして、血液中に含まれている赤血球、および各種白血球について、顕微鏡による画像をもとにご説明いただきました。哺乳類と違って核を有する赤血球や、血小板と同様の役割を果たす栓球の存在など、興味深い内容が続きました。



田向先生より提供いただいた資料より

ただ、カメの血液生化学検査は、その数値が周りの環境や温度、あるいは性差等によってかなり変化し、その解釈が難しい側面があるので注意が必要とのことでした。

続いて画像診断の説明に移り、「背腹像」「側臥位像」そして「吻尾側像」のX線撮影法についてそれぞれ示していただきました。中でも、吻尾側像を撮影する際に、パンを掴むためのトングを使って保定を行う手法など、他にはない工夫が施されている様子に、参加者はしきりに感心しておりました。ただし、骨質の甲羅に覆われているカメの画像診断に関しては、なかなか細部の状態を読み込むことが困難なため、その診断には限界もあり、熟練を要するとのことでした。従って、X線撮影のほか、超音波検査や、場合によってはCT検査も併用する必要があるようです。

なお、カメを始めとする爬虫類の診療においては、特に問診による飼育履歴や現状に関する聞き取りが大変重要とのことでした。従って、飼い主との親密な対話は何より欠かせないことが強調されました。

その後、鼻炎や肺炎、胃炎、鼓腸症、肢の炎症など、カメの具体的な症例に基づいて、順次診療および治療の流れを解説いただきましたが、他の動物とは異なる様相を示す部分も多く、その特異性に見合った技術の習得は決して簡単ではないようでした。特に、最後に示された膀胱結石の症例では、腹側の厚い甲羅を切開して、その結石を取り出すという外科的手術の様子が示されましたが、エポキシパテを使った復元法等も含め、これまでに見たことのない特殊な術式に対して、参加者一同からは思わず唸

り声が聞かれる程でした。



田向先生より提供いただいた資料より

爬虫類を代表して、カメに関するご講演をいただいた後、本来であれば両生類、特にカエルに関する詳しい解説をいただく予定だったのですが、残念ながら所定時間をオーバーしてしまったため、今回はツボカビ症に関する事例のみをご紹介します、一連のご講演は終了となりました。

なお、このご講演の直後に、田向先生はTBS系のテレビ番組である「情熱大陸」にご出演され、その反響が後日、会員の方から事務局に寄せられたりしました。また、田向先生は2010年12月に『珍獣の医学』（扶桑社発行）という著書をまとめられており、その内容が今回のご講演を聴き逃した方にも大いに参考になるものと思われるので、ここで改めてご紹介させていただきます。

田向先生に続いては、環境省野生生物課鳥獣保護業務室・鳥獣専門官の根上泰子先生より、「野鳥における高病原性インフルエンザの調査・対応について」というタイトルのもと、特に環境省を中心とする取組みの現状についてご講演を賜りました。



会場の様子



講師：根上泰子先生

その中で、まず国内および近隣諸国における鳥インフルエンザの発生状況や、その影響範囲に応じた対応レベルの設定とその実施内容、あるいは環境省と全国の都道府県との連携によるモニタリング調査の実行体制と、実態把握の状況等について解説いただきました。特に、鳥インフルエンザウイルスの実態調査に関しては、野鳥の糞便や死亡個体のスワブを用いた分析が日常的に進められており、その結果についても、順次フィードバックしていく体制を今後も充実させていきたいとの意向を示していた

できました。それには、WRVを含め、全国各地の獣医師会等の協力が益々重要になってくるものと考えられます。



環境省発行「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」より

また、カモやハクチョウを始めとする水鳥や、あるいは猛禽類やツルの仲間など、鳥インフルエンザに関して高リスクと考えられる種については、特に監視体制を充実させ、野鳥の保全を図っていくと同時に、農水省や厚労省とも連携しながら、鳥インフルエンザから、家禽や市民を護るための方策をも視野に入れつつ、総合的に活動を推進していきたいとのことでした。根上先生は、前職で国立環境研究所におられる時から、感染症に関する研究をご専門とされてこられましたので、今後も環境省において大いに活躍されることを期待する次第です。

一連の講演を終えた後、WRVの皆川康雄副会長より、本誌でも何度か取り上げております、馬場国敏先生を中心とする福島県の震災地における活動の現状を改めてご紹介いただいた後、大窪武彦副会長による、小笠原諸島におけるノネコの捕獲等を通じた野生動物の保全活動のご報告を含めた閉会の挨拶をもって、予定のプログラムは終了となりました。

講習会修了後は、別室にて懇親会を開かせていただきましたが、講師の先生方も含め、関係の方々の間では情報や意見交換など、和やかな雰囲気の中、それぞれに話の輪が広がっておりました。



懇親会の様子



寛洋二事務局(経理担当)の挨拶

なお終わりに、講師としてご講演を賜りました田向健一先生と根上泰子先生を始め、本事業にご協力をいただきました方々、あるいは当日ご参加いただきましたすべての方々に対し、改めてここに厚くお礼申し上げたいと存じます。

講演会「インドネシア・スマトラ島のオランウータンを救おう！」開催報告

W R V 事務局

去る平成23年12月17日(土)、東京環境工科専門学校(東京都渋谷区)の301教室を会場として、標記の講演会を開催いたしました。今回は、WWFジャパン((公財)世界自然保護基金ジャパン)の協力を得ながら、WRVと東京環境工科専門学校の共催という形で当日の運営を行いました。参加に関しては、事前申込みを募集することなく、すべて当日受付けの形式を取りましたため、どれくらいの来場者が見込めるのか当初不安もありましたが、蓋を開けてみると、のべ70名程の方が駆けつけてくださり、かなり活気のある講演会となりました。

当日はまず、WRVの新妻勲夫会長に開会の挨拶をお願いした後、時間が限られていたこともあり、さっそく講演に移らせていただきました。



新妻会長による開会あいさつ



講師：山浦文義氏(WWF-J)

前半は、WWFジャパンにおいて広報を担当されている山浦文義氏より、「スマトラ島における森の現状とWWFの取り組み」というタイトルでご講演を賜りました。

その中でまず、スマトラ島の森林は世界で最も早いスピードで減少しており、過去25年間に約半分の森林が消失してきた経過について触れられ、森林の違法伐採や現地で暮らす人々の生活や経済状態なども、深く関わっていることが指摘されました。特に、輸入コピー用紙の約80%が日本へ輸入されており、その原料を調達するための森林伐採が野生動物の生息域を大きく消失してきていることは、最も危惧すべきことであると強調されました。同時に、自然林を伐採したところに、パーム油を採取することなどを目的として、一面をアブラヤシのプランテーションにするような栽培法がまたたく間に広がり、周辺の自然環境が、極めて悪化していることも解説していただきました。

こうした現状に対して、WWFでは森林再生プロジェクトによる植林活動や行政当局、地域住民とともに違法伐採や不法侵入者を取り締まるパトロールの実施などの活動を行っています。特に山浦氏は、ソニー株式会社から出向されて現在の職に就かれているとのことで、今回の講演では、ソニーの高い技術を活かして撮影された映像を交えて、直にスマトラ島の森林の現状とその保全の重要性を語っていただいたことにより、それぞれの参加者に、深くその重要性が伝わったのではないかと感じられました。

山浦氏のご講演に続き、後半はWRVの皆川康雄副会長より、「スマトラオランウータン保全実習報告～野生動物リハビリテーション最前線～」というタイトルでお話しをいただきました。皆川副会長は、今回の会場となった東京環境工科専門学校の特任教員も務めておられ、平成23年8月にはそこの学生とともに、オランウータン保全活動の最前線となっているスマトラ島を訪れ、実習の指導をされました。今回の講演は、その際の記録をもとに構成されておりました。

その中でまず、オランウータンの動物学的特性や現在の現地における生息状況、およびその環境等に関して、基礎的な解説をしていただいた後、絶滅が危惧されている昨今、ど

のような保全活動が実際に現場で行われているのか、その動向について取材結果を基にお話しいただきました。また野生下で傷ついてしまった個体のリハビリテーションを行ったり、野生復帰のための援助を行ったりする施設として、現地に設置されている「オランウータン・フィーディングセンター」の日頃の活動などもご紹介いただきました。現在進行中の諸事業について臨場感あふれる内容に、多くの参加者がしきりに感心しておられました。



講師：皆川副会長(W R V)



現地の保全活動の様子

さらに、先に山浦氏が語られたような、現地における急激な環境の悪化が、多くのオランウータンを窮地に追い詰めている現状を力説され、私たち日本人にも責任あるこうした問題について、今後真剣に考え、一人一人ができることから取組んでいくことが求められていると語られました。オランウータンの未来を保証していくためには、動物学あるいは獣医学な見地から個体レベルで彼らの生息をサポートしていくことと同時に、社会的あるいは政治的な見地から、現地の環境を保全し、多くの人々がそのために必要な行動をとりつつ、そうした和を国際的な協力体制へと広げていくことが何より大切であることを、改めて痛感させられた次第です。

二題にわたる講演が終了した後、講師と参加者との間の質疑応答、あるいは意見交換が行われましたが、日頃からこうした問題に取り組んでいる方を中心に、活発な論議が重ねられました。また、東京環境工科専門学校の現場実習に実際に参加された学生からも、改めて現地における体験についてご紹介があり、大変有意義な総合討論の時間になったものと思われます。



学生の制作した現地報告のポスター



加藤輝代子教頭の閉会あいさつ

最後に、東京環境工科専門学校の加藤輝代子教頭より閉会のご挨拶を賜り、今回の講演会は盛会のうちに無事終了いたしました。

なお本講演会の開催にあたり、ご協力いただきました東京環境工科専門学校、およびWWF-Jの関係者の方々、あるいは当日ご参加いただいたすべての方々に、紙面を借りて深く感謝の意を表したいと思います。



平成23年度油等汚染事故対策水鳥救護研修 報告

WRV事務局 鈴木麻衣

平成23年10月18日、19日に第1回、12月6日、7日に第2回、平成24年1月23日、24日に第3回油等汚染事故対策水鳥救護研修（環境省）が、環境省水鳥救護研修センター（日野市）で開催されました。

研修会には鳥獣保護行政担当者、動物園水族館関係者、獣医師、ボランティア等、様々な立場の方に全国からご参加いただき、各回とも講義や実習へ積極的に取り組んでいるご様子でした。

研修では、油の性質や油等汚染事故の基礎知識から、情報体制、体制づくり、水鳥の生態、油汚染鳥の救護・治療・リハビリ等、専門知識を持った経験豊かな講師陣による充実した講演が行われました。また、重油と鳥の羽を使用した実験では、重油のにおいや羽に付着する様子等から、日常では目にする機会の無い重油がどのような物であるかを、実感していただきました。更に、油汚染されていると想定した生体（カモ）の洗浄実習では、実際の救護活動に従い、検査や強制給餌等をはじめ、油を落とすための特殊な洗浄法を学んでいただきました。これらの講義・実習に対し、参加者の方からは「水鳥救護を取り囲む様々なバックヤードを広く知れて良かった」「事故のこと、油のこと、鳥の扱いなど総合的に学ぶことができ、とても勉強になった」「実習では先生がすぐ側にいるので、その場で疑問を解決することが出来、良かった」「実習の作業は初めての経験だったが、現場でも活かしてみたい」等々、沢山のお声を頂戴しました。



会場の様子



重油を羽に付着させる実験



洗浄実習



リハビリプールの展張

また、交流会の時間では、講師や参加者により各々の立場ごとの取り組み等、様々な話題が語られ、親睦が深められたことと存じます。ここでの交流が、是非、今後の体制づくりに活かしていただけるよう、そして、有事の際のスムーズな救護活動に繋がるようお願いしております。

第1回から第3回の研修に加え、平成24年1月18日には、和歌山県において現地研修が開催されました。ちなみに、和歌山県獣医師会のご協力もあり、和歌山県獣医師会主催の油汚染海鳥救護講習会（12月4日開催）と当現地研修の両研修を受講のうえ、水鳥救護研修センターへのボランティア登録を希望される方に対しては、環境省鳥獣保護業務室より登録証が発行されました。

募集の際は、野鳥の会和歌山県支部のご協力により会報誌に案内が掲載され、また、参加者の申し出により地方新聞の記事にも記載されたことから、幅広い層の方にご参加いただきました。参加者は皆、大変熱心に講義を聴いておられました。また、終了後も盛んに意見交換がなされ、研修会は盛況のうちに終了することができました。



質疑応答の様子

これらの研修にご参加された方々が、それぞれの地元・立場において、今後の対策づくりや有事の際の水鳥救護活動に、学んだ専門知識および技術を活かしてくださることを願っております。

最後になりましたが、研修開催にあたり多大なご協力を賜りました、独立行政法人海上災害防止センター、公益財団法人日本野鳥の会、NRDA アジア、また現地研修については和歌山県自然保護室をはじめ、社団法人和歌山県獣医師会等の関係者の皆様方に、心より感謝申し上げます。

<コラム> 海鳥・絶滅種の再確認

2月上旬の新聞各紙の報道等により、既にご存知の方々も多いかもしれませんが、先頃、1990年代初頭に米国ミッドウェイ諸島付近で確認されたのを最後に、絶滅したものと考えられていた海鳥の一種が、再確認されました。もととなった6羽の標本は、すべて小笠原諸島付近で1997年から2011年の間に採集されたもので、DNA鑑定等の結果、絶滅種と見られていた *Bryan's Shearwater* (ブライアンズ・シェアウォーター) : *Puffinus bryani* であることが判明しました。



写真提供:小笠原自然文化研究所

この種はもともとヒメミズナギドリ *Puffinus assimilis* と同一視されてきたものが、形態的特徴の相違、ならびにDNA鑑定の結果から2011年になって改めて新種として認定されたもので、その際に用いられた標本は、1963年に同じくミッドウェイ諸島で採集されたものでした。今回、それが、日本国内の小笠原諸島に生息していることが改めて確認され、また、これまでの目撃地や標本の採集地が分散していることから、現在でも相当の個体数の生存が見込めるため、今後の保全に向けた動きも急速に活発化していくことが期待されています。

和名については、「オガサワラヒメミズナギドリ」という名称が最有力のようですが、いずれにしても、こうした海鳥の再確認という話題は、油汚染鳥の救護活動等に日頃から取り組んでいるWRVといたしましても何より喜ばしいことですので、今後の動向にさらに注目していきたいと考えております。

(箕輪多津男)

野生動物ボランティアセンターにおける被災動物の受入れについて

野生動物ボランティアセンター 主宰 馬場 国敏
所長 皆川 康雄

昨年7月より福島原発20km警戒区域内で保護されたペットを収容してきた「緊急災害時動物救援本部福島シェルター」(福島県三春町)が1月をもって、その役目を終えました。(緊急災害時動物救援本部の構成団体:日本動物愛護協会、日本動物福祉協会、日本愛玩動物協会、日本獣医師会)

そこで、1月7日より川崎の野生動物ボランティアセンターが、その活動を引き継ぐこととし、受入れを始めてまいりました。(受入れ頭数:犬19頭、猫15頭)

被災動物の世話は、日頃から当センターで活動している『神奈川県野生動物リハビリテーター』によるボランティア活動により実行されています。

2月末日現在、犬は11頭、猫は5頭が里親に引き取られていきました。噛み癖を矯正してからの引き渡しとなるため、今も里親を募集しております。また、エサ代等の飼育管理費に対する寄付を募っています。ご協力のほどよろしくお願いします。



※里親、寄付に関する問合せ先:野生動物ボランティアセンター
〒211-0042 川崎市中原区下新城2-1-28 電話 044-777-8243
郵便振込 口座番号:00290-1-38872
加入者名:野生動物ボランティアセンター
通信欄 :被災動物寄付

これまでに受けたマスコミ取材

内容:被災動物の里親募集と献身的なボランティア(リハビリテーター)の紹介

- ◆新聞社:朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、神奈川新聞
- ◆テレビ:BS-TBS、イッツコムケーブルテレビ
- ◆情報サイト(ウェブ):ダイヤモンド社

【事務局より寄付のお礼】

寄付ご協力者(敬称略) (平成23年12月1日から平成24年2月29日)

- 寄付金(一般) 2011.12.13 白倉 豊 5,000 円
- 寄付金(人災) 2011.12.27 牛浜ペットクリニック 94,219 円
- 寄付金(神奈川支部) 2012.2.9 山田亜佐子 2,000 円
- 寄付金(神奈川支部) 2012.2.9 地球はともだち 35,354 円
- 寄付金(神奈川支部) 2012.2.10 武本和代 5,000 円
- 寄付金(神奈川支部) 2012.2.25 神奈川県野生動物リハビリテーター 18,800 円

事務局日誌 2011.12.16～2012.3.16

=== 12 月 ===

- 16,25 : 神奈川県野生動物リハビリテーター(2級)実践活動 [神奈川支部] 対応 : 皆川
20 : 「ヒナを拾わないで!!」キャンペーン 合同報告会 出席 : 皆川、箕輪
25 : WRV ニュースレターNo.79 発行
27 : (財) 日本生態系協会「南関東地域におけるコウノトリ・トキ野生復帰構想」意見交換 対応 : 皆川

=== 1 月 ===

- 11～2/23 : (のべ8日間) 東京環境工科専門学校・WRV インターンシップ受入れ (水鳥救護研修センター) 対応 : 鈴木
16 : 海上防災事業者協会 視察 (水鳥救護研修センター) 対応 : 鈴木
18 : 平成23年度油汚染事故対策水鳥救護研修 現地研修 (和歌山県和歌山市) 対応 : 新妻、中津、皆川、箕輪、鈴木
23～24 : 第3回油汚染対策水鳥救護研修 対応 : 新妻、大窪、皆川、植松、箕輪、鈴木
31 : 神奈川県野生動物リハビリテーター資格認定検討委員会 [神奈川支部] 対応 : 馬場、皆川

=== 2 月 ===

- 01 : WRV 監査 出席 : 新妻、大窪、皆川、倉林、小森、寛
01 : WRV 東京都支部監査 出席 : 新妻、大窪、倉林、小森、寛
04 : 中谷祐二 東京都議会議員 都政報告会～新春の集い～ 出席 : 新妻
07 : 東京環境工科専門学校・油汚染鳥救護特別実習 (水鳥救護研修センター) 対応 : 皆川、箕輪、鈴木
10 : 県立高校生一日体験学習 (野生動物ボランティアセンター) [神奈川支部] 対応 : 皆川
10 : NPO 映像祭 作品名「リハビリテーターへの道」入選 [神奈川支部] 対応 : 皆川
16 : 吉田公一衆議院議員 農林水産委員長就任の会 出席 : 新妻
19 : (NPO)自然環境アカデミー・設立10周年記念パーティー(フォレストイン昭和館) 出席 : 皆川、野村、箕輪
25 : 神奈川県野生動物リハビリテーター7期生認定式 [神奈川支部] 対応 : 馬場、皆川
28 : 平成24年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」協賛申込・締切り 対応 : 箕輪

=== 3 月 ===

- 01 : 第2回家庭動物業界団体・企業代表者懇談会 出席 : 新妻
03 : 野生鳥獣による森林生態系への被害対策技術開発事業成果報告会 出席 : 皆川
05,08 : TBS 報道番組「Nスタ」取材「住宅地に暮らすタヌキについて」 対応 : 皆川
10 : 平成24年度WRV総会 (立川事務所) 出席 : 新妻、大窪、皆川、馬場、小松、倉林、小森、寛、箕輪、鈴木
10 : 平成24年度WRV東京都支部総会 (立川事務所) 出席 : 新妻、大窪、小松、倉林、小森、寛、箕輪、鈴木

野生動物救護獣医師協会 (ホームページ) <http://www.wrvj.org/> (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 80 2012.3.25 発行

発行 : 特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局 : 〒190-0013 東京都立川市富士見町 1-23-16 富士パークビル 302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人 : 新妻 勲夫 編集文責 : 皆川 康雄
